

阿蘇の自然や文化に関心を

1月30日、一の宮小学校4年生が野焼きで使う「火消し棒」の製作体験をしました。この体験は、草原環境学習の一環で国立阿蘇青少年交流の家が企画したもので、生徒は野焼きについて話を聞き、町古閑牧野組合や阿蘇グリーンストック(野焼き支援ボランティア)、環境省職員と和気あいあいと活動に取り組みました。



わがまちの「温泉むすめ」

2月8日、阿蘇内牧温泉大観荘において「阿蘇ほむら生誕祭」が開催され、全国からファンが集まりました。お披露目された阿蘇の温泉むすめ「阿蘇ほむら」は、波野の神楽をイメージした姿など新たに6種類のデザインで登場。5つのエリアを巡り、パネルの写真を投稿すると景品がもらえるフォトラリーも、3月22日まで開催されています。



公務員の仕事を理解する

2月4日、阿蘇地域振興局において、阿蘇中央高校1年生を対象とした公務員説明会が開催されました。

自衛隊熊本地方協力本部阿蘇地域事務所が職業理解や進路選択の幅を広げてもらおうと企画したもので、説明会には、自衛隊をはじめ警察署や市役所など5つの機関が参加。生徒は真剣な表情で説明を聞きました。



戦争のない世界を目指して

援護事業功労表彰(厚生労働大臣表彰)を受賞した、山部征三さんが、2月2日に市長のもとを訪れ受賞を報告しました。長年、戦没者遺族として遺族会活動や援護事業にも携わられた功績が認められ今回の受賞となりました。山部さんは阿蘇市遺族会連合会会長を平成24年2月21日から務められています。



地域の農業を支える

熊本県農業コンクール経営体部門優秀賞を受賞した、下村委也さんと下村千絵さんが、2月2日に市長のもとを訪れ受賞を報告しました。下村さん夫婦は、根の張りをよくする栽培管理や高温対策に力を入れ、トマトや水稻を栽培しています。また、計画的に離農者の農地を引き受けることで地域の農業にも貢献しています。



人権作文で輝かしい功績

第44回全国中学生人権作文コンテスト熊本県大会で、県内143校から寄せられた2万4,329人の作品の中から「最優秀賞 熊本地方法務局長賞」を受賞した阿蘇中学校1年生の宮崎來那さんが、2月2日市長のもとを訪れ受賞を報告しました。宮崎さんは「受賞を知った瞬間は嬉しくて、お母さんに一番に報告しました」と話しました。



阿蘇の観光について学ぶ

2月9日、阿蘇中央高校3年生78人が、本市の観光業への理解やSNSでの情報発信力の向上を目指し、次世代観光リーダー育成プログラムに挑戦しました。午前中は阿蘇テレワークセンター職員によるSNS講座と、阿蘇火山博物館職員による観光防災の出前授業が行われ、午後からは観光客や教育旅行で人気のパラグライダーやマウンテンバイクなど4つの体験プログラムに分かれ、SNS用の写真を撮影しながらアクティビティを体験しました。



▲出前授業を真剣に聞く生徒たち



▲そば打ち体験とマウンテンバイク体験のようす

県美術展で輝かしい功績

第50回記念熊本県高等学校美術展において、全215点の中から最優秀賞を受賞した阿蘇中央高等学校の二藤栄太さん(阿蘇中出身)と、高森高等学校の山田はるさん(一の宮中出身)が、1月15日に市長のもとを訪れ受賞を報告しました。



二藤さんの作品「憂し」



山田さんの作品「絵心」

郷土を学ぶ本の寄贈

元阿蘇市文化財保護副委員長の中川竹久さんが、自社出版された本「ふるさと坂梨の歴史と文化財」を市内の小中学校や図書館、県立図書館などに約300冊寄贈されました。本は中川さんの出身である坂梨区についてまとめたもので、中川さんは「地域おこしや学校の地域学習に活用してほしい」と話しました。



二藤さんは「学校の授業で畜産農家取材した際に牛の生き生きとした様子を見て、この様子を大きな段ボールで表現したいと思った」。山田さんは「幼少期の自分が未来の自分の絵を描く楽しさやワクワクした様子を表現した」と話しました。

二藤さんと山田さんの作品は、今年秋田県で開催される全国高等学校総合文化祭に出品されます。



「自分を見つめて」

阿蘇中央高等学校
阿蘇清峰校舎 1年

ながの ゆうが
永野 雄雅

高校生活が始まって約五ヶ月がたちました。今の生活はとても楽しくて充実した生活を送っています。高校生活が始まってから僕は少しですが、成長できたと思います。僕は、中学二年生の二学期に学校に行けなくなり不登校になりました。最初は、なぜ学校に行けないのかわからなくて、眠れない日々が続いていました。学校を見ただけで息苦しくなったり、毎日怖い夢を見るようになってしまいました。

それから二週間がたち、阿蘇市教育支援センター「ほっとスクールASO」に通い始めました。ほっとスクールASOでは、小学生から中学生までが通っています。自分の苦手なところを勉強したりスポーツをしたり、野菜を作ったりなど色々な体験をしています。少しでも学校に行くために、一週間に一日でもいいから学校に行くという目標を立て、家族のみんなは、前向きな言葉をいつも言ってくれたり僕のサポートをしてくれたりしていました。そうして少しずつ途中からでも学校に行けるようになりました。

そのようなことが続き、あつという間に三年生になり、進路について考える時期になりました。三年の二期は第一希望の阿蘇郡市以外の学校と通信制の学校で迷いましたが、阿蘇郡市以外の高校に行きたいという

気持ちが強くなり、当時はそこを第一希望にしていました。しかし、その学校に行くのが、出席日数が足りないのかなと思っただけで、まだ完璧に学校に行けていなかった。それで諦めました。阿蘇中央高校で新しいことに挑戦できたので、今は、自分の中にも、この決断は良かったと思っています。

自然が好きだったことや、地元でもある阿蘇中央高校の阿蘇清峰校舎に目を向けました。阿蘇清峰校舎はたくさんの自然に囲まれていて自分はこの学校で農業について色々なことを学びたいと思い、第一希望を阿蘇中央高校の阿蘇清峰校舎にしました。勉強が遅れている分、たくさん勉強しました。面接の練習もしてできる限りのことをしました。面接本番はとても緊張しましたが、しっかりと自分の思いを言うことができました。

先生からのコメント

また、中学校の部活動で学んだ責任感やほっとスクールASOで学んだ友達と関わることの大切さなど、中学校で経験してきたことをいかして、高校生活で勉強と部活動を両立できるように頑張っていきたいです。

身近にあるSDGsの問題を考える

2月7日、農村環境改善センターで、身近にあるSDGsの問題について自身の考えをプレゼンする「第4回ICTを活用した小中学生プレゼンコンテストinSDGs」が開催されました。このコンテストでは、エントリー総数316点の中から予備審査で選ばれた12点が発表され、本選に参加した小中学生は、関係者や保護者およそ100人の前で、堂々としたプレゼンを行いました。



▲堂々としたプレゼン発表を行う小学生



▲最優秀賞を受賞した小中学生

【小学校5年生の部 最優秀賞】
タイトル:「目指せ!阿蘇市の空き家ゼロ!~住み続けられるまちづくり~」
倉岡 想汰さん・橋口 あき奈さん・山本 千紗さん(阿蘇小)

【小学校6年生の部 最優秀賞】
タイトル:「いろんな人とつながるまちづくり~楽しさMAX!仲イイじゃん~」
興梠 七美さん・後藤 曹太さん・田上 季空さん(波野小)

【中学校1年生の部 最優秀賞】
タイトル:「妊婦さんを守ろう!~マタニティマークと周りの人の思いやり~」
吉良 莉璃花さん・古閑 聖香さん(一の宮中)

【中学校2年生の部 最優秀賞】
タイトル:「What we can do now 今の私達にできる事」
志賀 文音さん・穴見 穂乃香さん・川内 未沙菜さん(一の宮中)

すごいぞ! 阿蘇のお米!

数々のお米のコンクールで受賞した、有限会社アグリテック保久土の中山北斗さんと、農事組合法人碧水の蔵原凌さん・竹原忠信代表理事・竹原剛さん・山崎淳さん・小野邦博さん(写真左から)が、1月22日に市長のもとを訪れ受賞を報告しました。

中山さんは「全国的には阿蘇のお米の知名度はまだ低い状況です。熊本のお米と言えば「阿蘇」と認識してもらえるよう、今後も取り組みを続けていきたい」。また農事組合法人碧水の皆さんは「受賞をきっかけに組合員のお米作りに対する意欲が向上し、担い手も増えています。阿蘇市のPRや農地の維持・振興のために、これからも努力を続けていきたい」と話しました。



- (中山北斗さん)
- ▶第27回米・食味分析鑑定コンクール国際大会 国際総合部門 金賞
- ▶第19回あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト ネット部門 最優秀金賞
- ▶第3回 玄米限定・土鍋炊飯食味グランプリ 「玄米王2025」入賞



- (竹原剛さん)
- ▶第27回米・食味分析鑑定コンクール国際大会 都道府県・海外地域代表お米選手権 金賞
- ▶第9回九州のお米食味コンクール 個人総合部門 特別賞 (山崎淳さん)
- ▶第4回全日本お米グランプリin北広島町 準グランプリ (蔵原凌さん)
- ▶第9回九州のお米食味コンクール 個人総合部門 金賞 (小野邦博さん)
- ▶第9回九州のお米食味コンクール 個人総合部門 特別賞